

京都大学建築学科の学習・教育目標

A 総合能力

A1 コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力

説得力のある報告書などの文書を書く能力とともに、日本語や英語を用いて自分の考えや意見を他人に的確に伝えることができる能力

A2 建築の価値を多面的に理解する能力

建築物が存在する意味や建築行為を計画・設計、構造、環境などの多面的な側面から捉えることができる能力

B 専門知識と基礎知識

B1 科学的問題解決能力

科学的分析に基づき、建築に関わる様々な工学的問題や現象をモデル化してその問題や現象の本質を理解し、最適な解決策を見出すことのできる能力

B2 建築の設計・計画的側面の理解能力

建築・都市空間に求められる用途、機能、構成、美しさ、快適さ等の条件を理解し、条件に適合する優れた空間を創造することのできるデザイン能力

B3 建築の構造的側面の理解能力

建築物の力学的・構造工学的現象を把握し、種々の外乱に対する建築物の安全性の評価や条件に適合する構造設計を行うことのできる能力

B4 建築の環境工学的側面の理解能力

建築環境と建築設備に関する知識を用いて環境負荷の小さい建築が提案でき、人間の生理的・心理的反応を考慮して快適な建築・都市空間が提案できる能力

C 実践能力

C1 建築物を実現する能力

計画、設計、施工等のあらゆる過程を理解し、それらの関係を総合的に理解して建築物を実現する能力

C2 建築行為の社会的役割を理解する能力

社会における建築行為の意味を理解し、それを具体的な計画・設計へと結びつけることのできる能力

C3 職能倫理観の構築

建築技術者として適切な倫理観・世界観・歴史観を涵養するとともに、それに基づく意思決定や行動ができる能力

D 先駆性

D1 問題発見・解決能力

これまでに検討されたことがない新しい観点から建築物の存在や設計行為を捉え、その観点から建築に関わる種々の問題を解決することのできる能力

D2 独創的視点の修得

既往の概念に捉われず、独自の視点から建築の計画・設計、構造、環境に関わる種々の問題を検討することのできる能力

E 国際的視野

E1 多様な社会制度において建築行為を位置づける能力

国内外に存在する種々の社会制度を把握し、それぞれの社会制度に対応する建築行為の意味を多面的に理解することのできる能力

E2 グローバルかつローカルな価値観を理解する能力

全世界に共通の建築に関する価値観と特定の地域のみが存在する価値観の比較検討ができ、定められた地域における建築行為に役立てることのできる能力